内田家文書調査報告

―代表的史料の紹介と文書目録―

東金市教育委員会

発刊にあたって

地域の歴史を語るうえで、当時の社会を如実に示してくれる古文書は貴重な文字史料といえます。このたび、『東金市新宿　内田家文書調査報告　―代表的史料の紹介と文書目録―』が刊行されることになりました。内田家の文書は平成二十六年、茂原市立美術館・郷土資料館に寄贈された神明家文書（茂原市箕輪）の中から発見されました。内田家は江戸時代、東金地域随一の豪商で町名主も務め、また福島藩（板倉家）の御用達であったため財政を掌握しており、福島市の歴史にとっても貴重な史料群とのことです。さらに九十九里地方で盛んであった干鰯の取引にも参入しており、取引相手である紀州藩（紀州徳川家）や尾州藩（尾張徳川家）に関する資料もあります。

本書には寄贈史料の中から、代表的な資料の一部を紹介するとともに、他の資料につきましては文書目録という形で掲載しております。これらの資料は、東金市や東金周辺地域だけでなく、千葉県外も含めた地域史研究の窓口となるものと思います。

結びに、刊行にあたりこれら大量の資料群の調査分析に当たられました、千葉県文書館古文書調査員の加藤時男氏の献身的なご尽力に心より感謝申し上げますと共に、関係機関、団体等の皆様方のご協力にも厚くお礼申し上げます。

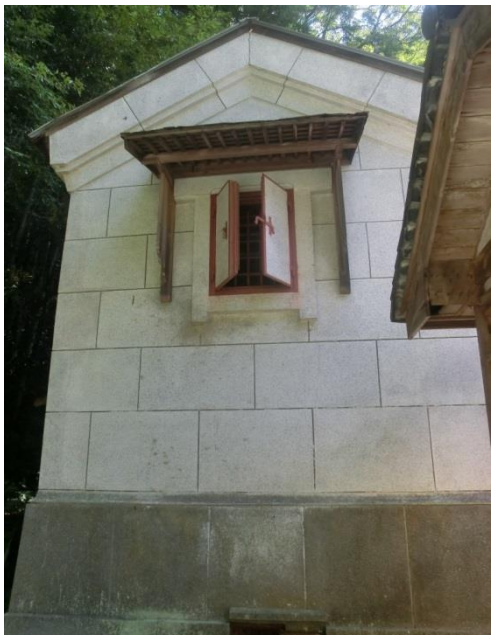
平成二十八年二月

東金市教育委員会　教育長　飯田　秀一

口　絵

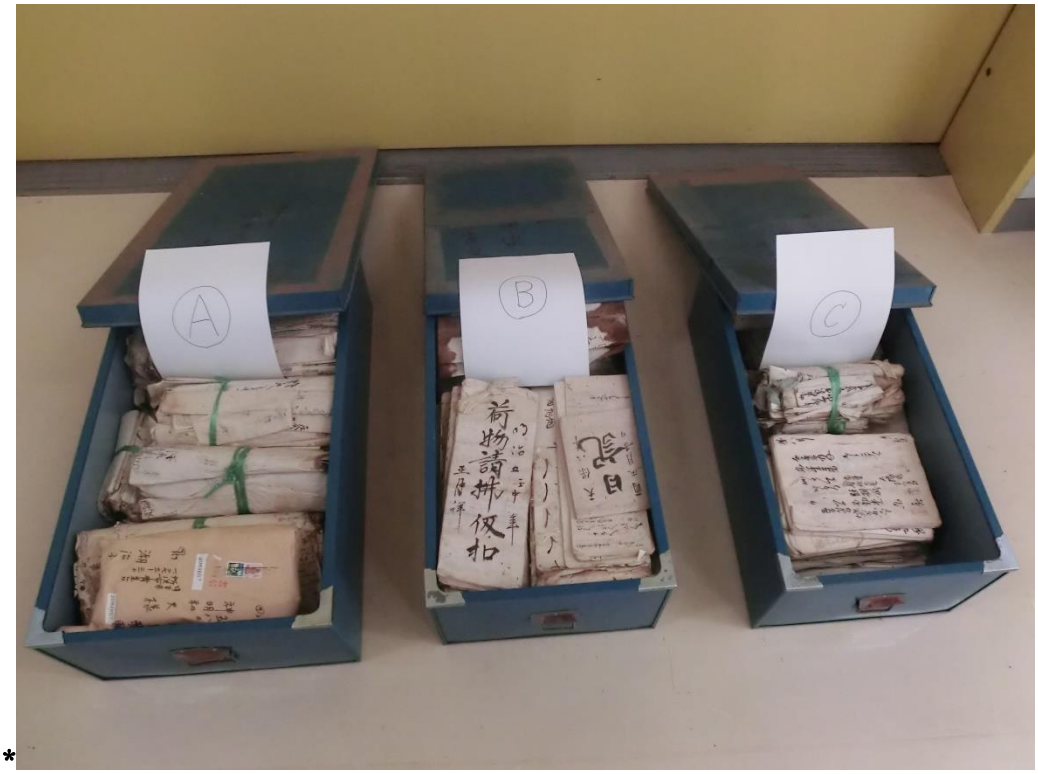
茂原　神明家全景（右手前にあった土蔵は数年前に崩壊した）

玄 関



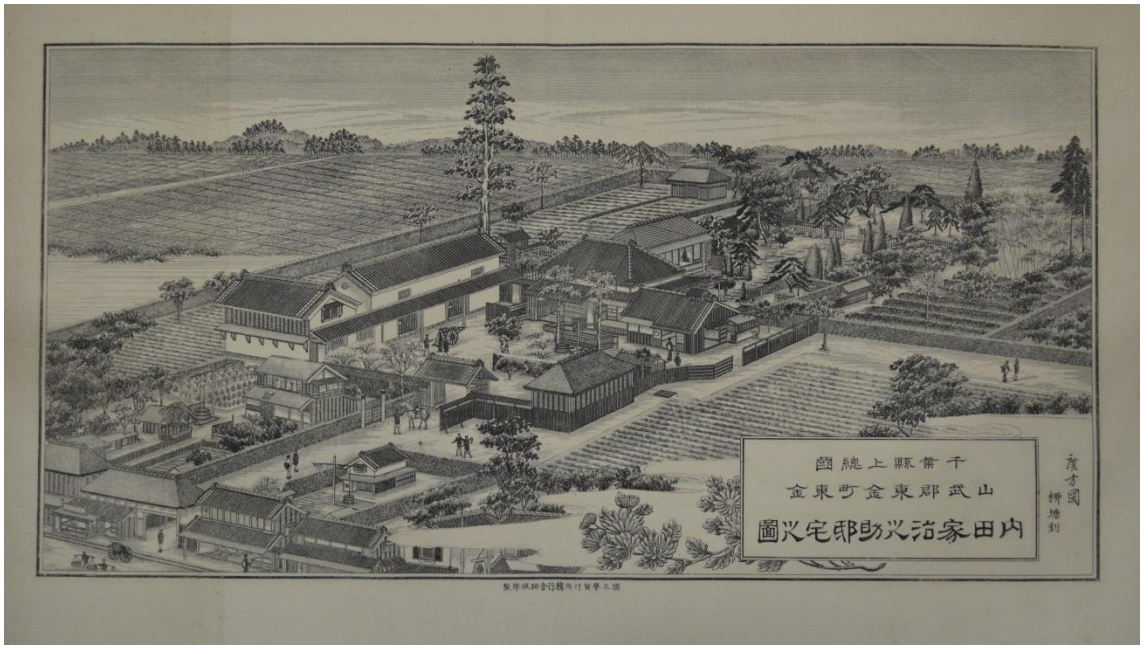
屋敷蔵外観（母屋裏側）

現状（ 箱外観 ）

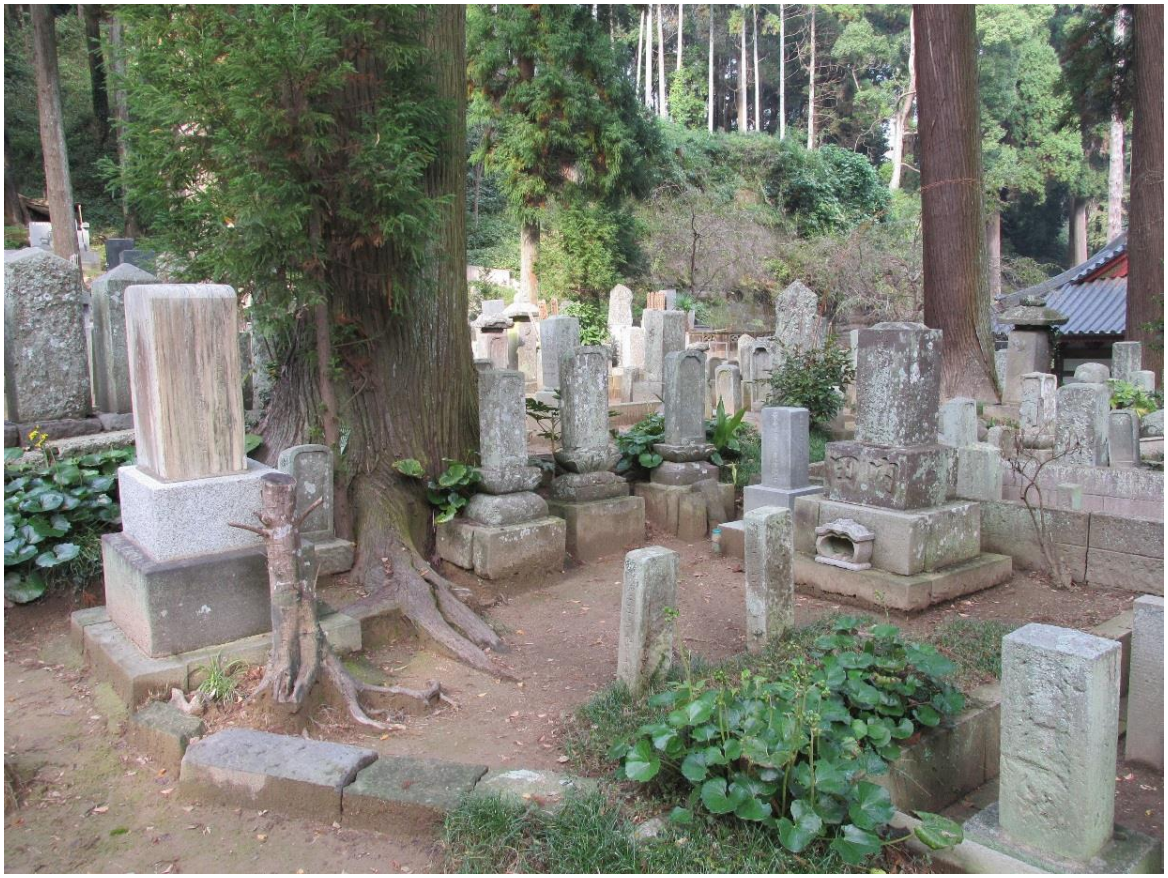


*

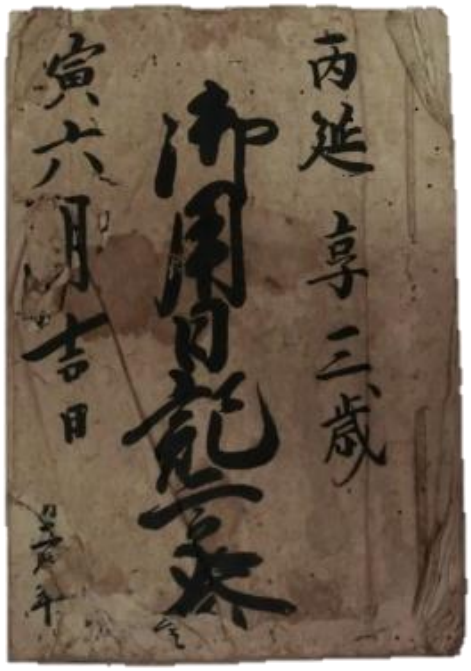
現状（ 箱内部 ）



内田家治之助邸宅之図(『日本博覧図』、明治 29 年頃)

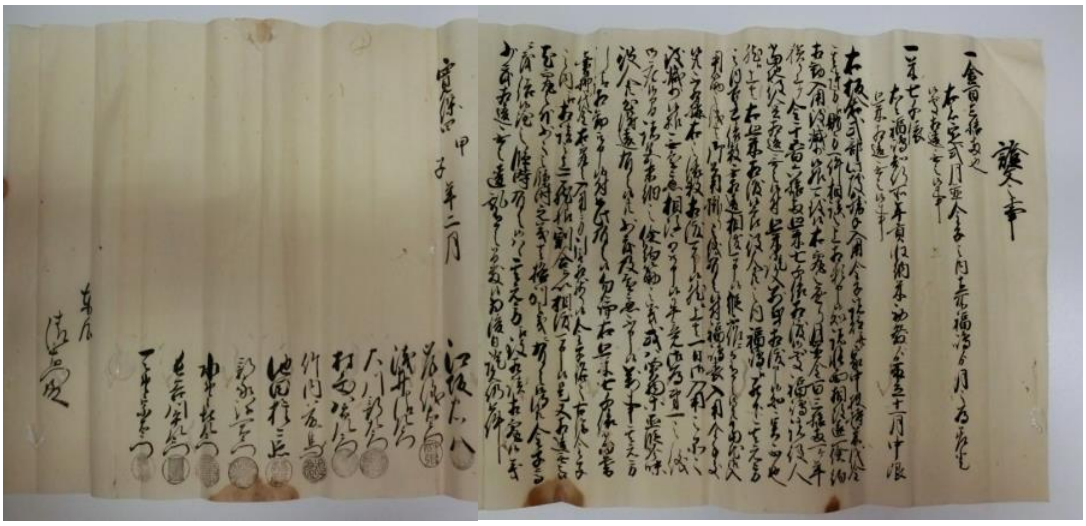


内田家墓地(本漸寺)



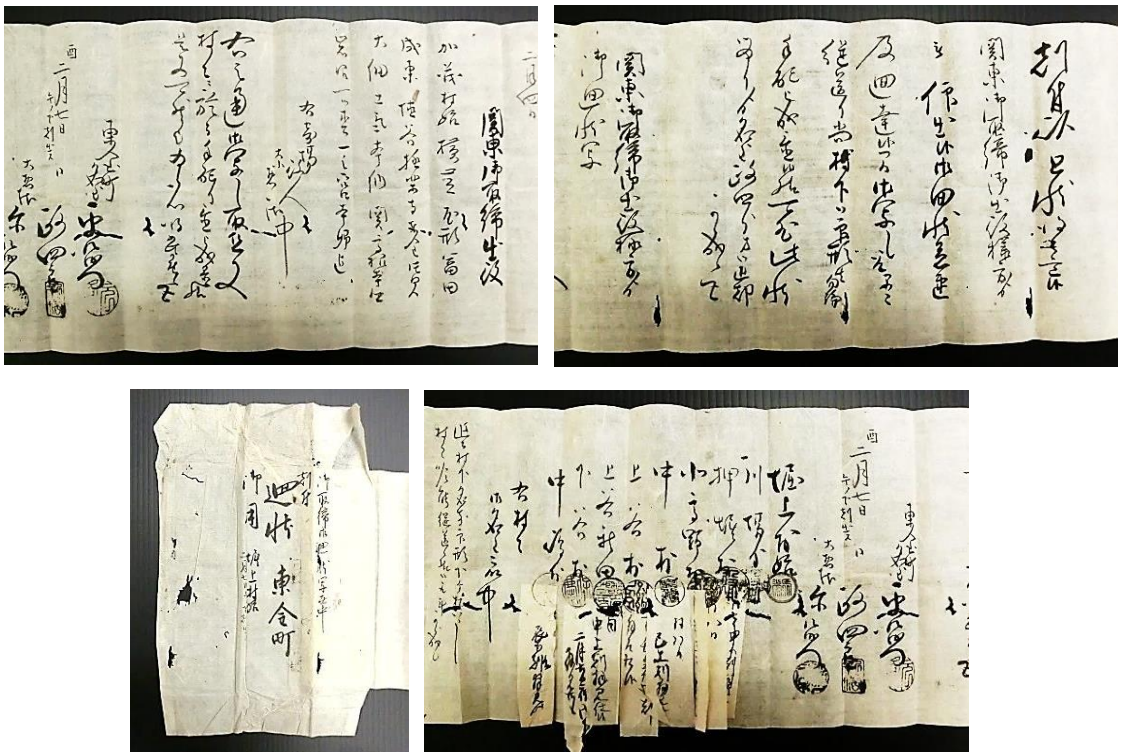
御用日記（Ｃ－１－１）

国々御巡見（Ｃ－１－７）



板倉式部勝手入用ニ付証文（Ａ－２－１）

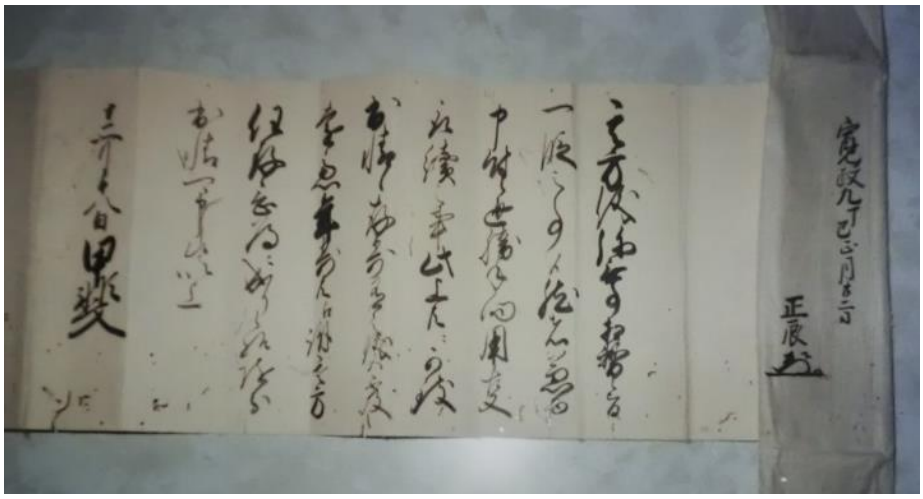
御賄相続ニ付証文（Ａ－２－２）



刻付廻状〈関東御取締出役廻状写〉（Ａ－４－30 ）

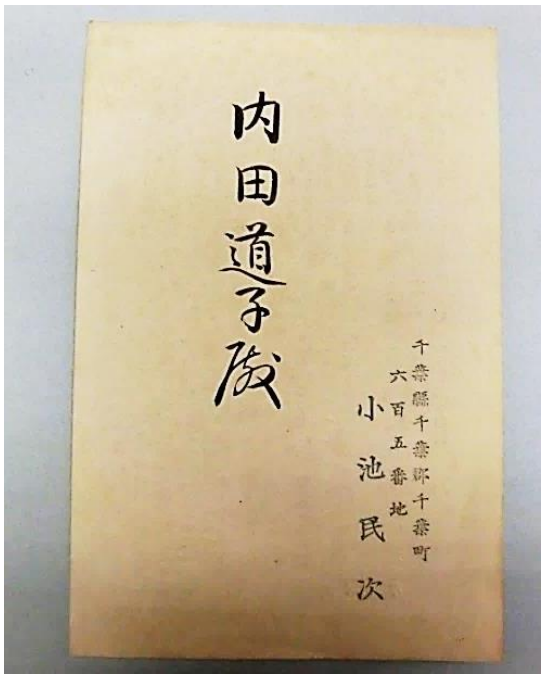
茂原　東条家収蔵文書

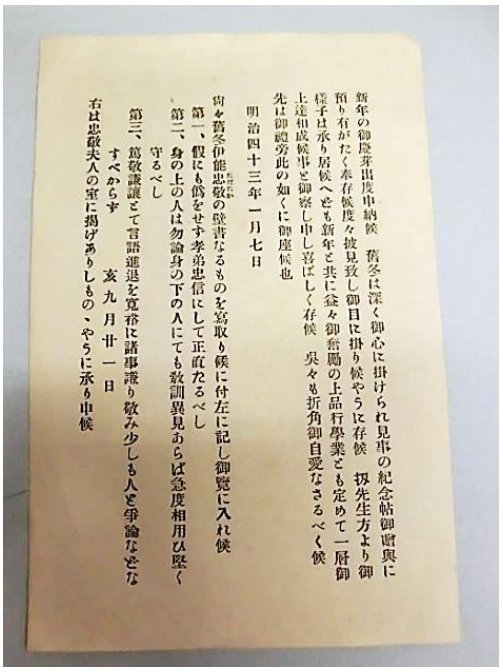
天保六年御用留（『千葉県の歴史』採録）



板倉甲斐守から内田弥次馬（正辰）宛　勝手向役任命書

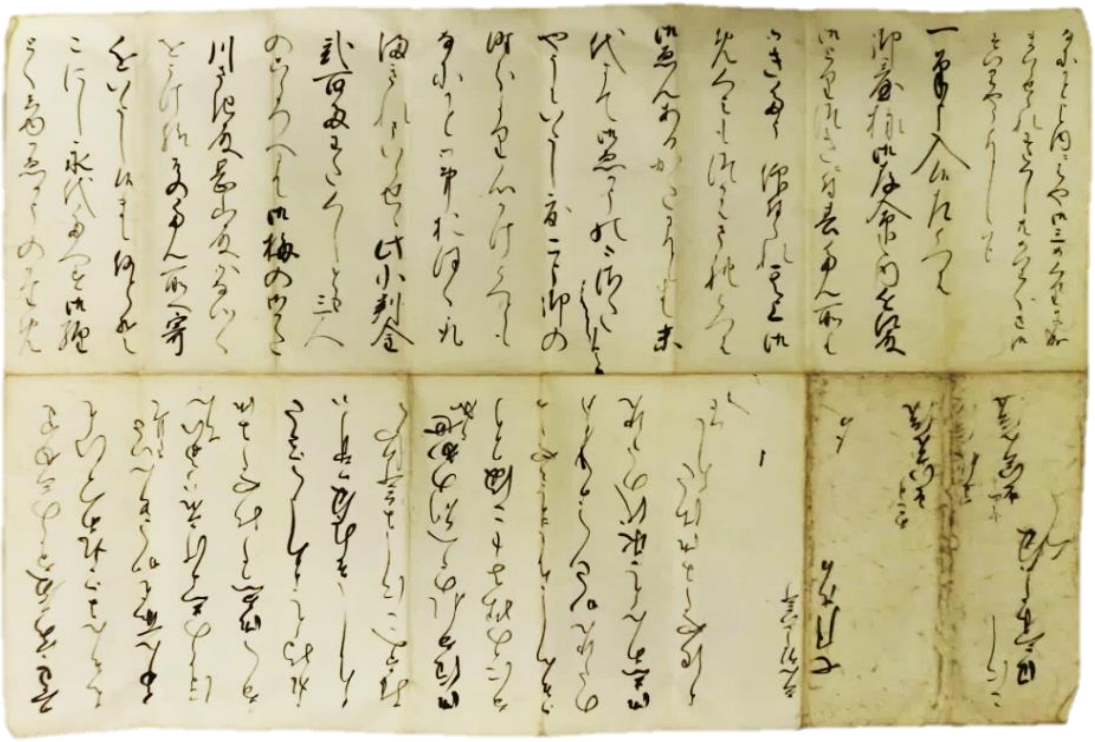
絵葉書〈東金高等女学校仮校舎〉　（茂原　神明家文書 し３－１）





東金高女初代校長 小池民次葉書（茂原　神明家文書 し３－２）
〈内田道子あて〉

正法寺（小林檀林）あて書簡
（茂原　神明家文書い―５）



【読　解】

なにかと申候内三はや御三めくりに成
まいらせられ、わたくし共めいわくさ御
すいりやう候へく候、以上
一筆申入候、左候へ者
御台様御存命之内近江殿
御とりつき二付其たん所にて
御きたう仰付られ其上御
めくミもつかはされ候へ者
御ゑんあるかたにて候まゝ末
代まて御ゑかうの御さた候
やうにいたし度可被仰の
時分より心かけ候へとも
なにかと御事おほく取
まきれまいらせ候、此小判金
弐百両わたくしとも三人
のこゝろへにて、御梅の御かた、
川崎との、岡山殿へ御内〳〵
をうけ給そのたん所へ寄
進いたし候まゝ、何とそ
こにし永代たへす御経
とくしゆ御ゑかうのため
堂客殿なとのしゆり
はそんに御取あつかひ候て
たん所にて、かくもんいたされ
ほとのしよけ衆ハたいてん
なく御ゑかう行やうに御
取持候て、よろしく御さた
候へく候、それさま御事ハ
殊更こにしに年久しく
御住なれのうえ則の出世被成
なにかの様子もこまかに
御そんしにて候まゝみようか
のためかた〳〵よく〳〵
御しあん候て永代のため
よきやうに御さた候へく候、以上
ゑんほう六年
七月廿日　　ゟ
あこ事
すい光院
□□事
里　称　院
登山事
こにし　　けいしん院
日けうさま
人々

目次

発刊にあたって　東金市教育委員会　教育長　飯田　秀一
口絵
目次
凡例
一、内田家文書について　千葉県文書館古文書調査員　加藤　時男　1頁
(1)調査の経緯
(2)文書の概要と意義　4頁
二、代表的史料の紹介　5頁
細目次
(1)茂原市神明家収蔵内田家文書（茂原市立美術館・郷土資料館蔵）　8頁
(2)茂原市東条家集内田家文書　104頁
(3)「東金市史」収蔵内田家文書
(a)所沢市潮（内田）家文書　111頁
(b)東金市関岡帝一家文書　121頁
付、史料の解説　124頁
三、文書目録
(1)茂原市神明家収蔵内田家文書（茂原市立美術館・郷土資料館蔵）　129頁
(2)茂原市東条家蔵内田家文書　190頁
(3)「東金市史」収集内田家文書
(a)所沢市潮（内田）家文書　192頁
(b)東金市関岡帝一家文書　193頁
あとがき　東金市文化財審議会　会長　近藤　正

凡例

一　本書は、「東金市新宿　内田家文書調査報告」であり、史料紹介と目録編の二部編成とした。

一　本書は、平成二十六（二〇一四）年、新たに、茂原市箕輪の神明家から発見された内田家文書を中心としている。その調査は、茂原市美術館・郷土資料館で行われ、平成二十七年（二〇一五年五月には同館より「神明家文書調査報告書」も刊行されている。本書は、その報告書に全面的に依拠している。

一　本書には、以前に調査済の茂原市八幡原　東条家収蔵内田家文書（平成八年茂原市立図書館観光「茂原の古文書史料集第３集」収録）及び「東金市史収集内田家文書」も併せて採録した。

一　目録の形式は、文書番号、表題、年代、差出人、受取人、形態、数量について記載した。

一　文書の形態については、状（一枚文書）、竪冊、横冊、横半冊に分類し、表示した。

一　史料には通し番号を付し、末尾に目録番号を表示した。

一　翻刻にあたっては、原文に忠実であることを基本としたが、旧字体は常用漢字に改め、変体仮名は平仮名とした。

一　助詞の者（は）、茂（も）、江（え）、而已（のみ）などはそのままとした。頻出する合字（より）

一　明らかな誤字、衍字、脱字は修正または正しいと思われる字を（　）内に傍記したが、不明の場合は（ママ）を傍記した。平出は二字分、欠字は一字分の空白とした。

一　虫損部分のうち、確実に推定できる部分は翻刻し、解読不能の部分は□、［　］などとした。

一　史料中には、一部に身分的差別に基づく名称も見られるが、身分的差別を歴史的に研究し、その根絶を期する一助とするため、そのままとした。

一　本書の作成にあたっては、千葉県文書館、茂原市美術館・郷土資料館、東金市文化財審議会などの協力を得た。

一　全体の編集、解説などは加藤時男・中山文明・小川力也（以上、茂原市美術館・郷土資料館古文書調査員）・青木幸一・鑓田千尋・露久保真紀子の六名が担当した。